

The 14th Asian Chemical Congressに参加して

アジアの化学会議ACC

2011年9月5日から同8日にかけて、バンコク（タイ）において開催されたThe 14th Asian Chemical Congress（以下14ACC; www.14acc.org）に参加した。本学会は、アジア化学会連合（Federation of Asian Chemical Societies, 以下FACS）の主催により、化学の広い分野を対象として、隔年で開催される。今回は、スワン・タンタヤノン、タイ化学会会長を実行委員長として開催された。

目立った日本からの貢献

14ACCには48カ国から約1,500人の出席者があったが、日本からの参加者は318人で、開催国タイの475人に次いで多かった。招待講演520件、一般講演292件、ポスター671件の発表があり、熱い討論が3日間繰り広げられた。タイは雨季で毎日のように午後にはスコールが降る。むせ返る熱気と辛い食事、冷たいビールに刺激を受けながら学会を楽しんだ。

FACSでは毎ACCにおいて、アジアで活躍する化学者が5つのカテゴリー別に表彰される。本年は化学教育賞に東北大学名誉教授の荻野和子先生が選出され、開会式で表彰が行われた。荻野先生のマイクロスケールケミストリーを利用した、安価で安全な化学実験装置の開発と若い世代への化学教育の啓発活動は国際的に高く評価されている。先生の受賞講演では、実演を交えて装置が紹介された。水の電気分解による水素の発生を、



写真1 荻野和子先生の受賞講演

数十秒で観察することができ、かつ実験設備の全くない講演会場でも実演できる。

会場ではロシアの参加者から、マイクロスケール装置を紹介するウェブサイト (<http://science.icu.ac.jp/MCE/>) や取扱説明書の英語版を早急に作ってほしいと、強い要請があった（本講演の内容は10月3日付C&ENにも紹介された）。

また、昨年ノーベル化学賞を受賞された鈴木章先生、根岸英一先生へFACS Fellowの称号が贈られることが決まった。

アジア化学会連合 (FACS) とは

FACSは、1979年に発足したアジアの29の国と地域の化学会からなる連合で、東アジアからオセアニア、西アジアまで含む組織である (www.facs-as.org)。ACC開催国が会議後の2年間会長国を務める。通例ACCの直前に総会が開催される。今回は岩澤康裕日本化学会会長を含めて各国化学会の代表が一堂に集い、FACSの活動、ACCの運営などについて協議された。FACSはアメリカ化学会と協定を結び合同シンポジウムを開催するなど、アジア地域の化学会の代表として



写真2 閉会式。大会旗が手渡された。

活発な国際活動を展開している。ただ予算規模が小さい、恒久的な事務局がない、など今後考慮すべき課題もある。実務的な事項は役員会（Executive Committee, 以下EXCO）によって話し合われる。筆者はニュースレターの編集委員として2009年からEXCOに参加し、1期2年の役を務めさせていただいた。今学会を境に新たにアジアを3地域に分割し、それぞれの代表をEXCOメンバーとすることが決まった。東アジア・太平洋地域から日本が代表として選出され、日本化学会国際交流委員会委員長・高橋保先生（北海道大学触媒化学研究センター）が参加されることとなった。次のACCは2013年夏にシンガポールで開催される。2015年にはバングラデシュで開催されることが、今回の総会で決定した。

アジアにおける日本の化学

急成長を遂げるアジアは、日本の化学工業にとって重要な生産拠点であり市場である。アジアの化学における日本チームの存在感をFACSの活動の中でも高めていくことが今後必要であろう。

〔鈴木教之（上智大学）〕